
RICOH Device Manager Pro

バックアップ/バージョンアップ作業手順書

1. 概要

本手順書は「DeviceManagerPro 機器アドレス帳データ確認用ツール操作手順書.pdf」での作業を実施する前に実施する RICOH Device Manager Pro(以降、DMPro と表現)のバージョンアップとそれに伴うバックアップの作業手順を記載した手順書です。

2. RICOH Device Manager Pro のバックアップ

DM Proは下記2つのDBを持っており、それぞれにデータを格納しています。
よって、それぞれの情報をバックアップする必要があります。

- ・DM Pro DB
- ・SQL Server

なお、RICOH Device Manager Pro のバックアップは以下の流れでおこないます。

■バックアップの流れ

1. DMPro のサービスの停止
2. SQL Server のデータバックアップ
3. DMPro DB のデータバックアップ
4. DMPro サービスの開始

★補足

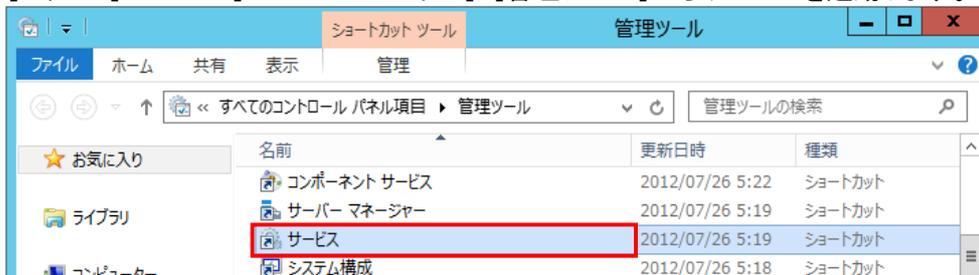
以降の手順は、下記環境における手順になります。

お客様環境でご使用の OS、SQL Server の種類によっては画面表示が異なる場合があります。

- ・OS : Windows Server 2012
- ・SQL Server : SQL Server 2012 Express

2.1. DMPro のサービスの停止

① [スタート]メニュー--[コントロールパネル]-[管理ツール]からサービスを起動します。



② サービス画面で、DMProのサービスを以下の順で停止します。

1. RICOH DMNX Service Boot Monitor ※インストールされている場合は停止します。
2. RICOH DMNX Device Manager Service
3. RICOH DMNX Central Manager Service



★補足

サービスを停止後、MFPから機器ログの転送は行われなくなります。
操作パネルには「ログ転送に失敗しました」が点滅表示されます。

③ [操作]メニュー--[最新の情報に更新]をクリックし、3つのサービスが停止(「状態」が空白表示)していることを確認します。



2.2. SQL Server のデータバックアップ

注意!!

バックアップするには SQL Server Management Studio をインストールしておく必要があります。

インストールされていない場合は、本手順書「5. 付録」-「5.1. SQL Server Management Studio のインストール」を参考にインストールしてください。インストール後に以降の手順を実施してください。

★補足

以下の手順は、SQL Server 2012 Management Studio のインストール手順になります。
お客様環境でご使用のSQL Server Management Studio の種類によっては画面表示が異なる場合があります。

- ①[スタート]メニューから[SQL Server Management Studio]のアイコンをクリックします。

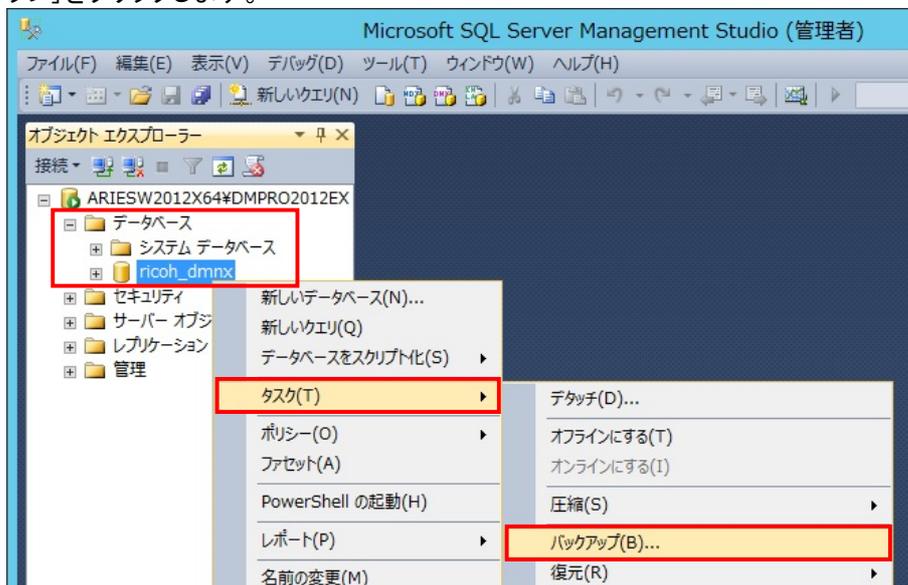


- ②「サーバー名」、「認証」を指定し、「接続」をクリックします。

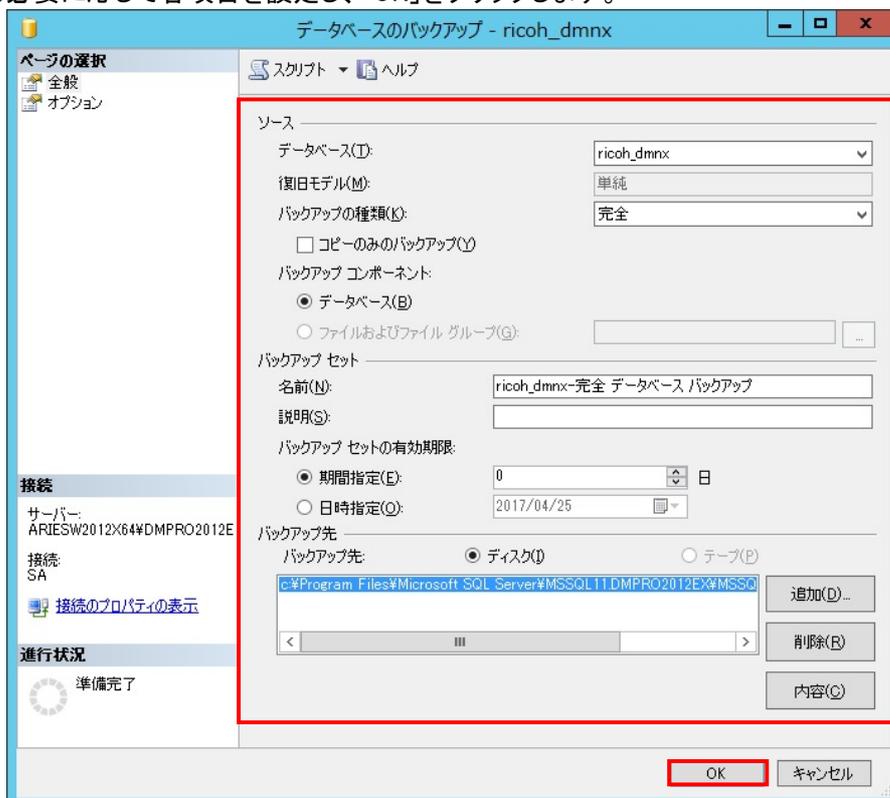


③SQL Server Management Studio が起動します。

オブジェクト エクスプローラーのツリーで[データベース]-[ricoh_dmnx]を右クリックし、[タスク]-[バックアップ]をクリックします。



④必要に応じて各項目を設定し、「OK」をクリックします。



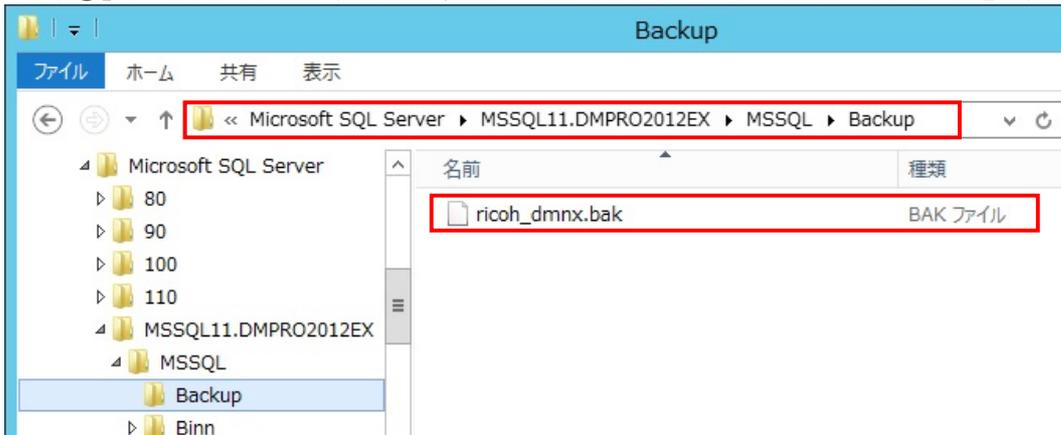
★補足

「バックアップセットの有効期限」は保存したバックアップデータへの上書きを禁止する日を指定できます。

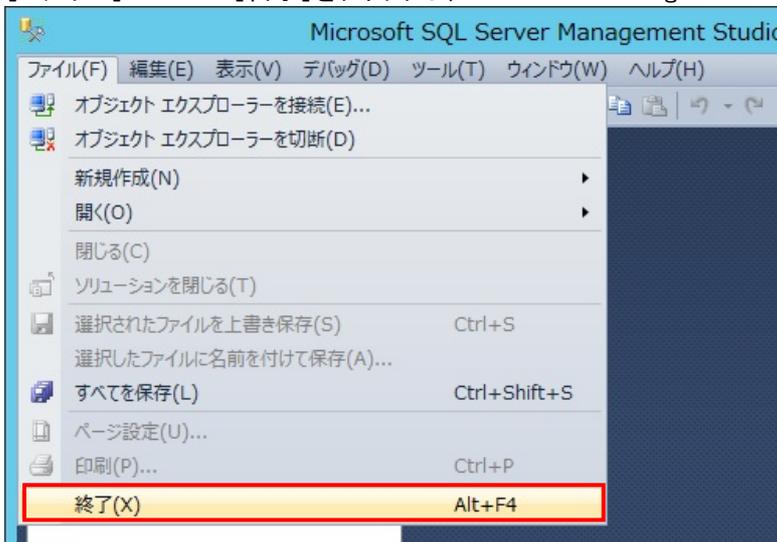
⑤バックアップ完了の画面が表示されます。「OK」をクリックします。



⑥「手順④」のバックアップ先に指定した場所にバックアップデータが作成されていることを確認します。



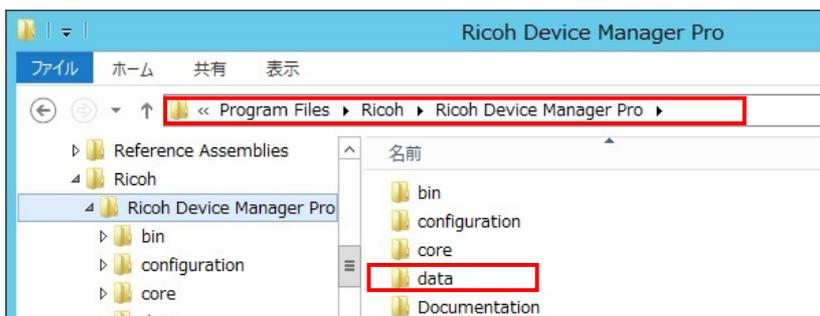
⑦[ファイル]メニュー-[終了]をクリックし、SQL Server Management Studioを閉じます。



2.3. DMPro DB のデータバックアップ

①インストールパス直下にある「data」フォルダーごとをすべてコピーし、任意の場所に保存します。

(インストールフォルダーデフォルト>C:\Program Files\Ricoh\Ricoh Device Manager Pro)

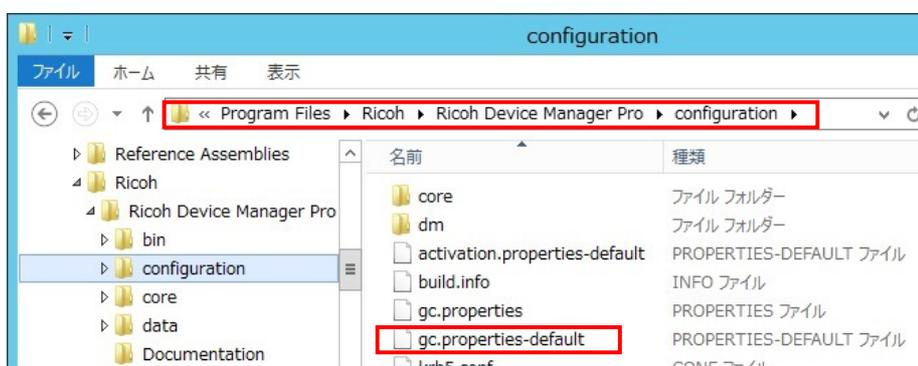


注意!!

以下ファイルも個別にバックアップしてください。

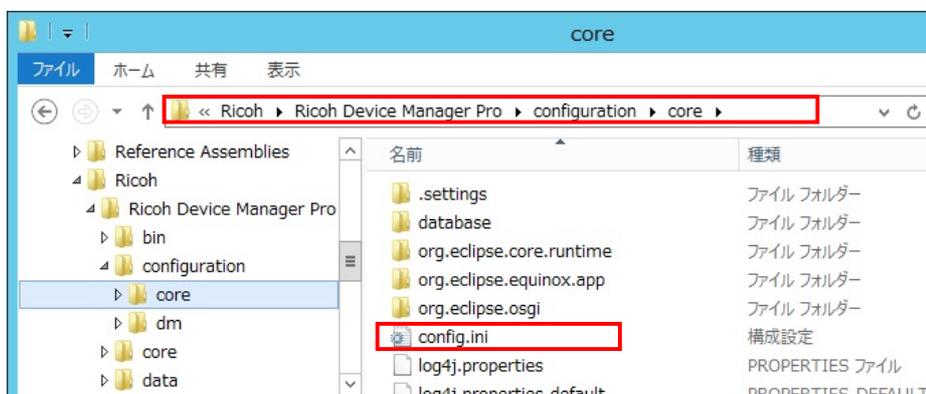
- バックアップの作成後にデータベースの接続文字列が変更された場合

インストールフォルダー¥configuration¥gc.properties-default



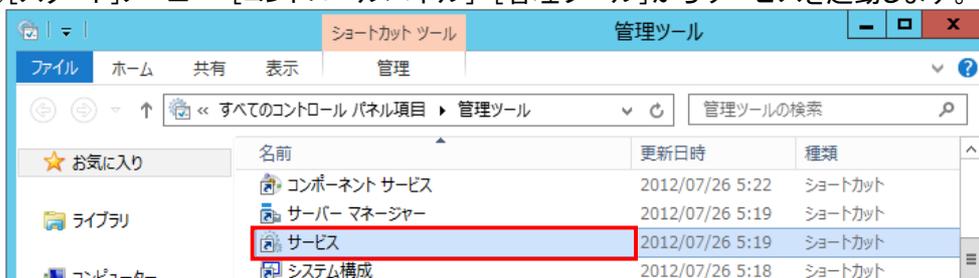
- バックアップ作成後に SSL の有効/無効が変更された場合

インストールフォルダー¥configuration¥core¥config.ini



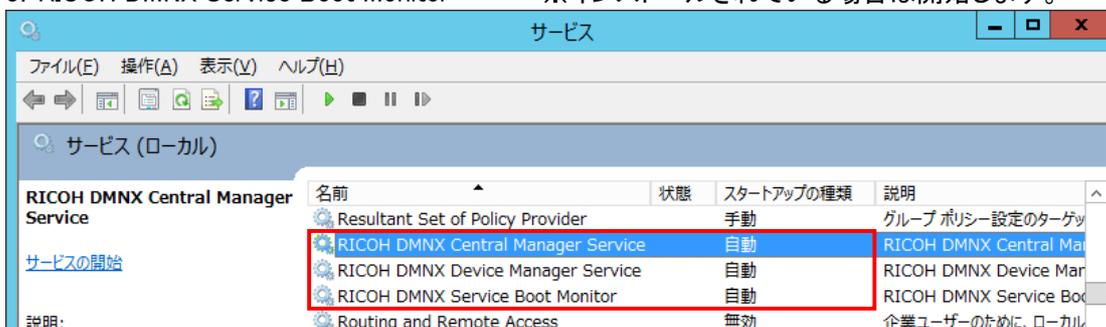
2.4. DMPro のサービスの開始

①[スタート]メニュー--[コントロールパネル]-[管理ツール]からサービスを起動します。



②サービス画面で、DMProのサービスを以下の順で開始します。

1. RICOH DMNX Central Manager Service
2. RICOH DMNX Device Manager Service
3. RICOH DMNX Service Boot Monitor ※インストールされている場合は開始します。



③3つのサービスが開始(「状態」が実行中表示)していることを確認します。



注意!!

[Windows タスク マネージャー]-[プロセス]タブにて、「java.exe」(2つあります)のCPU使用率が落ち着いた後、以降の手順を進めてください。

3. RICOH Device Manager Pro のバージョンアップ

注意!!

管理者権限でログインして実施してください。

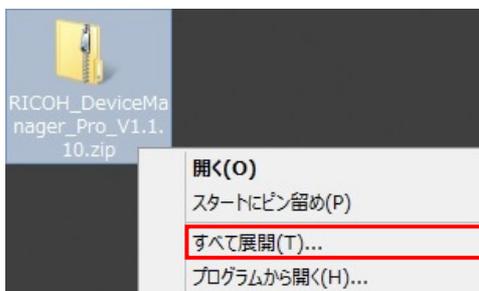
重要!!

DMP Pro V1.1.9以前のバージョンからDMP Pro V1.1.10へバージョンアップする際、「ジョブ情報出力ツール」
「filterJobLog.txt」の設定ファイルはクリアされます(初期値に戻ります)。
バージョンアップする際は以下の「手順①」を必ず実施してください。

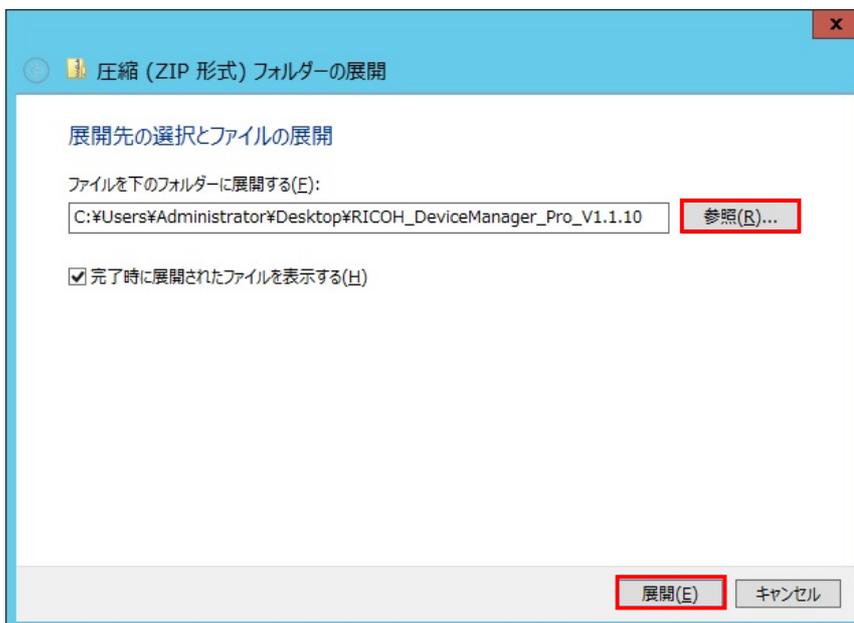
- ①リビジョンアップする前にC:\Program Files\Ricoh\Ricoh Device Manager Pro\tools\DeviceLogExportingToolフォルダー内の「config.properties」「filterJobLog.txt」をデスクトップなどに一旦退避させます。



- ②「RICOH_DeviceManager_Pro_V1.1.10.zip」のアイコンを右クリックし、「すべて展開」をクリックします。



- ③圧縮(ZIP形式)フォルダーの展開画面で、展開先のフォルダーを設定後、「展開」をクリックします。



- ④エクスプローラーで解凍先のフォルダーを開き、インストール環境にあった exe (64bit 環境の場合 : setup-x64.exe、32bit 環境の場合 : Ssetup-x86.exe) のアイコンをダブルクリックします。



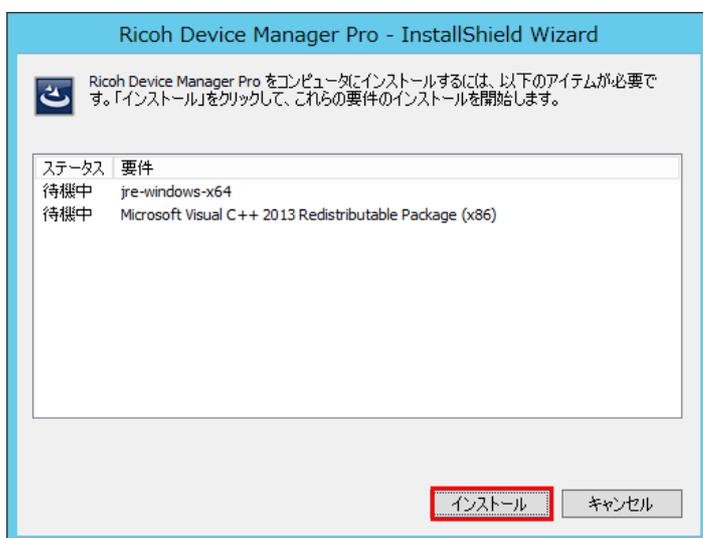
⑤インストールで使用する言語を選択の画面が表示されます。

言語を選択し、「OK」をクリックします。

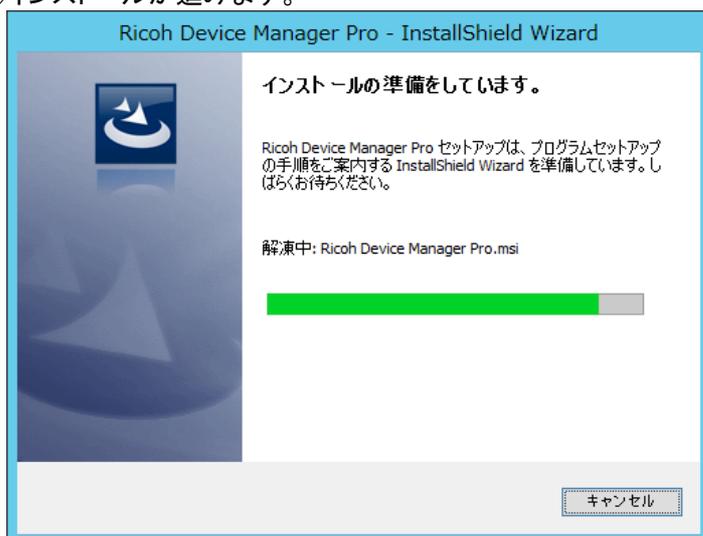


★補足

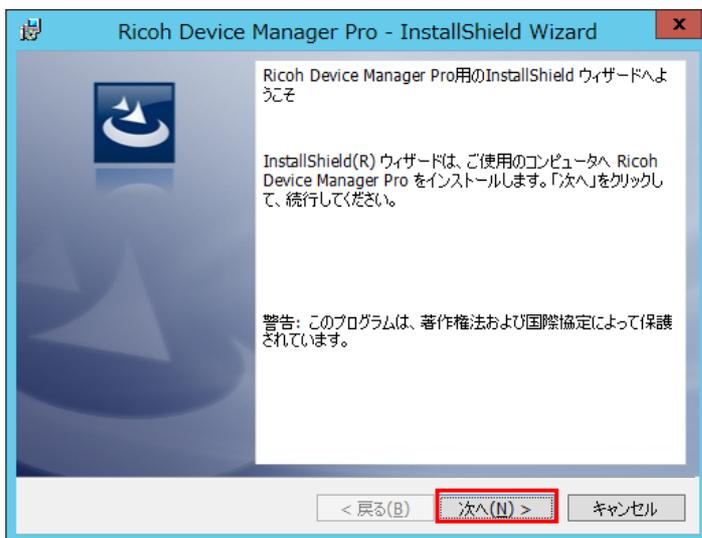
以下画面が表示された場合は、「インストール」をクリックします。



⑥インストールが進みます。



⑦インストールウィザードの画面が表示されます。「次へ」をクリックします。



⑧ソフトウェアのライセンス利用許諾画面が表示されます。

[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、「次へ」をクリックします。



⑨ サービスログイン情報の画面が表示されます。設定して「次へ」をクリックします。

※設定内容が不明な場合は、導入準備シートをご確認ください。



⑩ インストールの準備完了画面が表示されます。「インストール」をクリックします。

インストールが始まり、進捗状況画面が表示されます。



★補足

バージョンアップでは、インストールパスの変更はできません。

- ⑪インストールが完了画面が表示されます。「完了」をクリックします。

**注意!!**

[Windows タスク マネージャー]-[プロセス]タブにて、「java.exe」(2 つあります)の CPU 使用率が落ち着いた後、以降の手順を進めてください。

- ⑫「手順①」で退避させたファイルに戻します。



- ⑬[スタート]メニューから[Ricoh Device Manager Pro]のアイコンをクリックします。

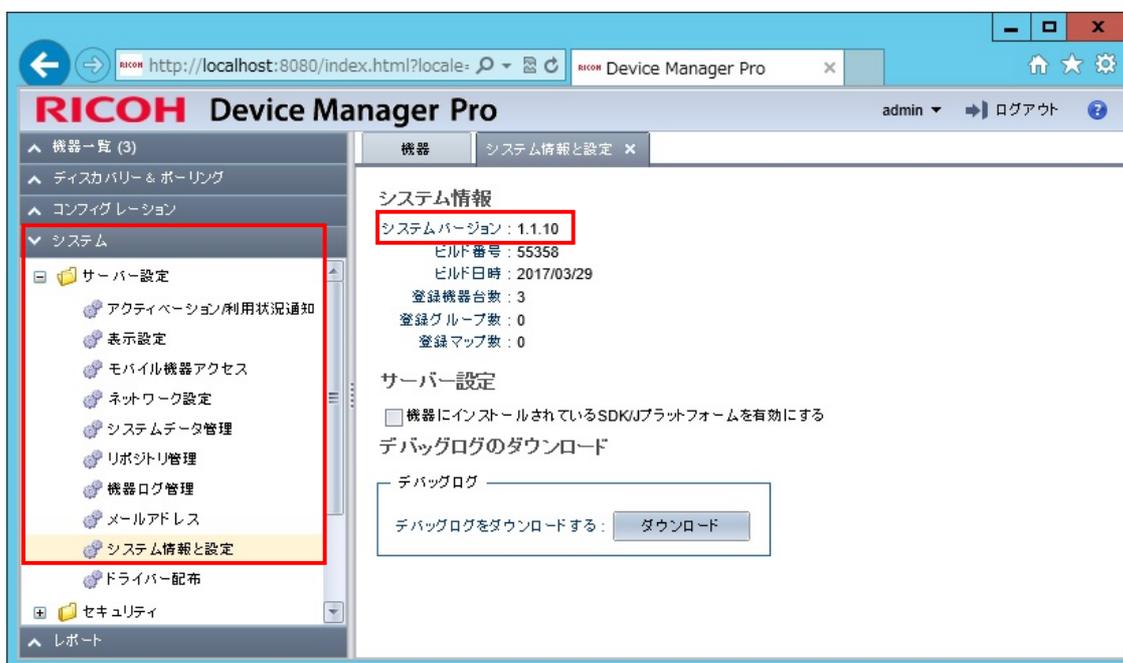


★補足

クライアント PC のブラウザを使用する場合は以下の URL にアクセスします。

http://DMPPro の PC の IP アドレス:8080/index.html?locale=ja

- ⑭左ペインのアコーディオンメニューから[システム]-[サーバー設定]-[システム情報と設定]を開き、システムバージョンが「1.1.10」と表示されていることを確認します。



本手順書での作業は終了です。

引き続き、「機器アドレス帳データ確認用ツール操作手順書」での作業を実施してください。

4. 付録

4.1. SQL Server Management Studio のインストール

★補足

以下の手順は、SQL Server 2012 Management Studio のインストール手順になります。
お客様環境でご使用の SQL Server Management Studio の種類によっては画面表示が異なる場合があります。

①SQL Server Management Studio のインストーラーダウンロードするためにMS社のサイトにアクセスします。
<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=29062>

②言語を選択し、「ダウンロード」をクリックします。



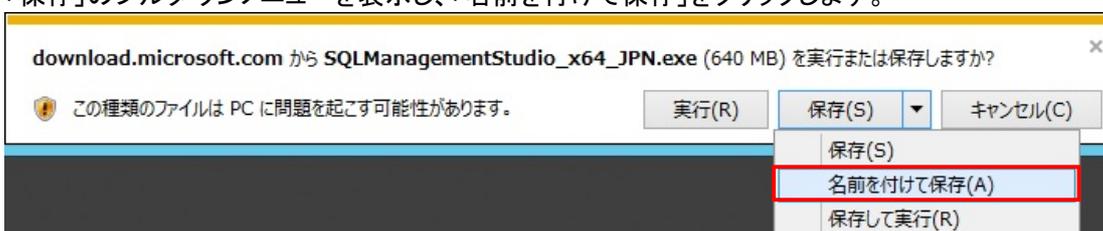
- ③「ダウンロードするプログラムを選んでください」画面で、SQL Server 2012 Management Studioにチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

注意!!

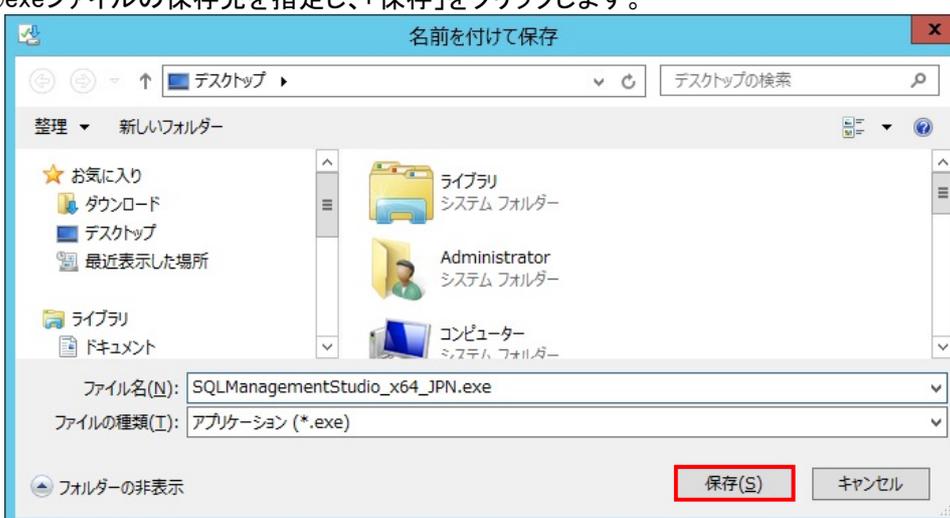
インストール環境にあった exe (64bit 環境の場合: *_x64_JPN.exe、32bit 環境の場合: *_x86_JPN.exe) を選択してください。



- ④ブラウザ画面の下部に「保存しますか？」のメッセージが表示されます。「保存」のプルダウンメニューを表示し、「名前を付けて保存」をクリックします。

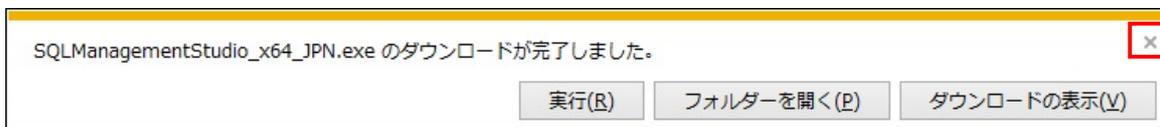


- ⑤exeファイルの保存先を指定し、「保存」をクリックします。

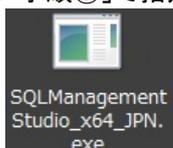


⑥保存が完了するとブラウザ画面の下部に「完了しました」のメッセージが表示されます。

「×」をクリックします。



⑦「手順⑤」で指定したフォルダーに保存されたexeをダブルクリックします。



★補足

セキュリティの警告画面が表示された場合は、「実行」をクリックします。



⑧「SQL Serverの新規スタンドアロンインストールを実行するか。既存のインストールに機能を追加します」をクリックします。

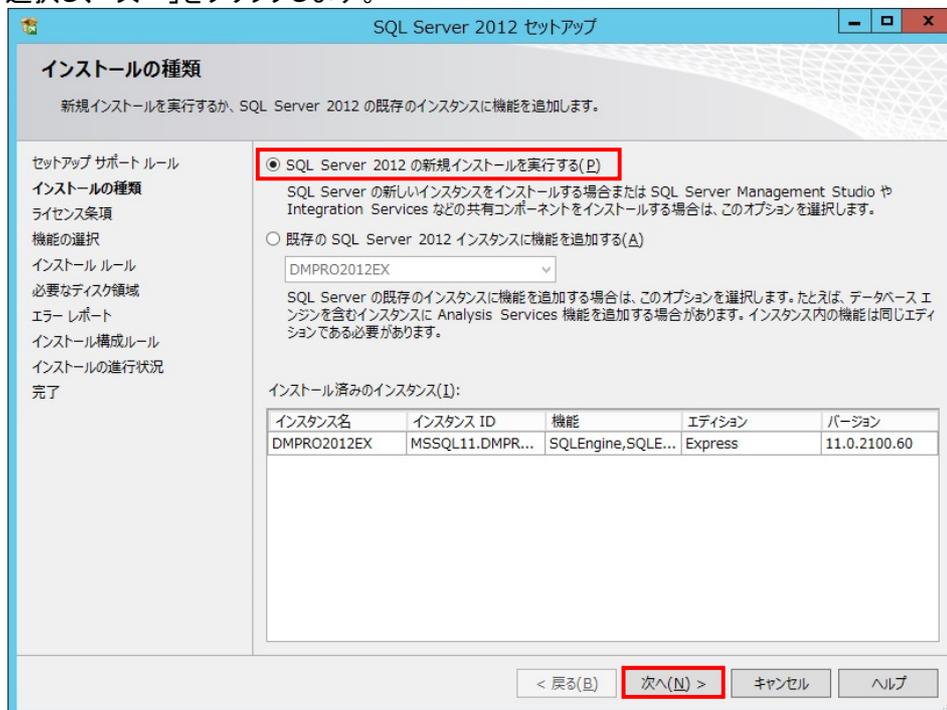


★補足

- ・製品の更新プログラムの画面が表示された場合は、「次へ」をクリックします。



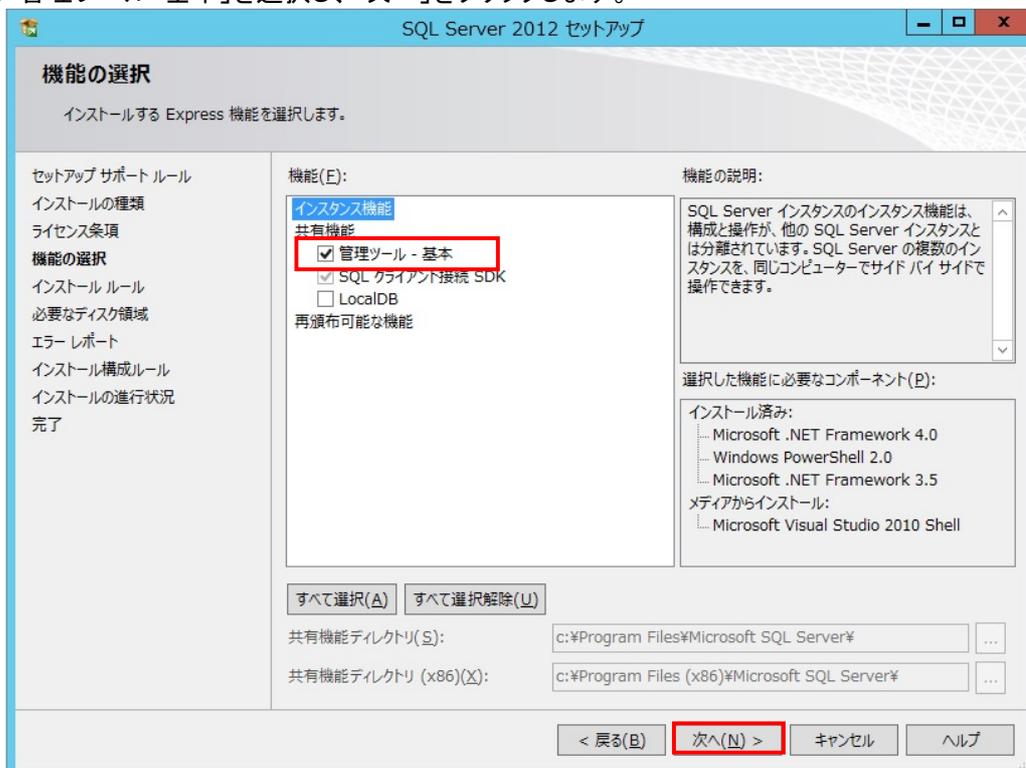
- ・インストールの種類が表示された場合は、「SQL Server 2012の新規インストールを実行する」を選択し、「次へ」をクリックします。



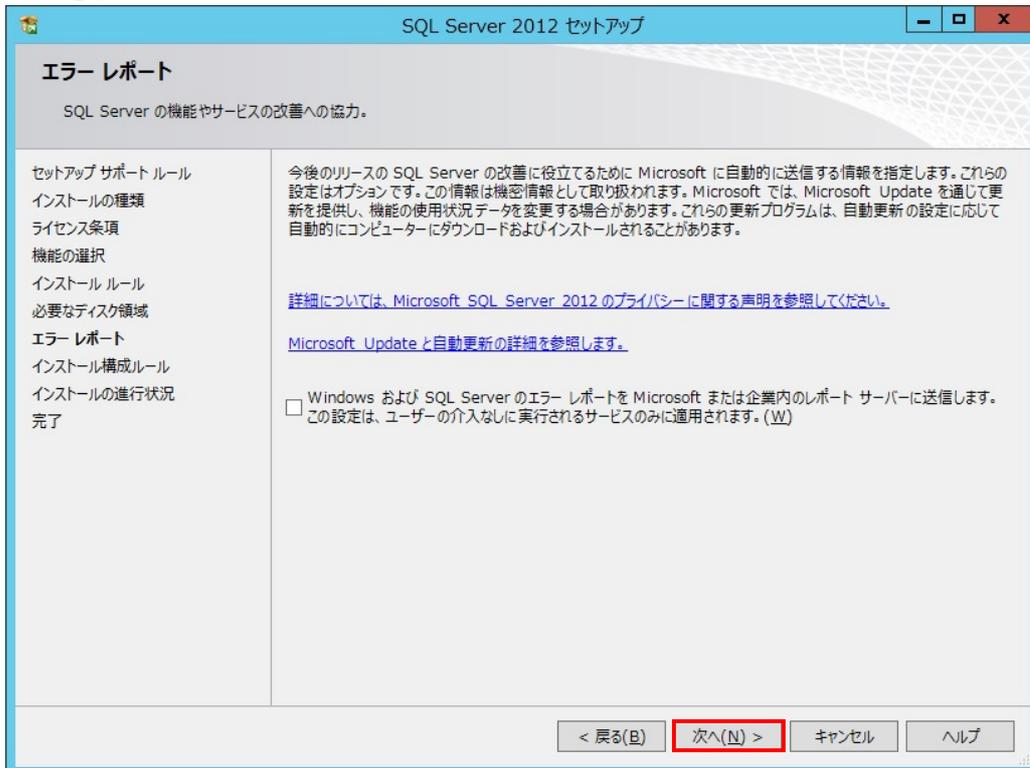
⑨「ライセンス条項に同意します。」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



⑩「管理ツール-基本」を選択し、「次へ」をクリックします。



⑪「次へ」をクリックします。



⑫インストールが開始されます。



⑬「閉じる」をクリックしてインストール完了です。

